

令和元年度第4回沖縄県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会議事要旨

日 時：令和2年2月6日（木）14：00～16：35

場 所：琉球大学医学部附属病院3階がんセンター

出席者：9名

傳道聡子（県立中部病院）、仲宗根恵美（那覇市立病院）、仲宗根るみ（北部地区医師会病院）、金城美奈子（県立八重山病院）、伊波義之（沖縄県健康長寿課）、島袋百代（ハシキョウジ・ハシキョウ沖縄アフェリエイト）、増田昌人（琉球大学医学部附属病院）、大久保礼子（琉球大学医学部附属病院）、山田綾美（琉球大学医学部附属病院）

陪席者：2名

東恩納貴子（那覇市立病院）、浦崎美由貴（沖縄県地域統括支援センター）

欠席者：2名

慶田博子（県立宮古病院）、樋口美智子（沖縄国際大学）

【報告事項】

1. 令和元年度第3回沖縄がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会議事要旨

資料1に基づき、令和元年度第3回沖縄県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会議事要旨が承認された。

2. がん患者ゆんたく会（10月～12月）

資料2-1～2-3に基づき、令和元年10月～12月に各拠点病院で開催されたがん患者ゆんたく会について報告があった。

県立中部病院では、医師向け研修会で患者遺族の立場から体験談スピーチを行った方や在宅で看取り経験をされた方の参加があり、ACPの話題もあった。11月は、三線の演奏があったり、自作の琉歌を演奏されたり、全員でハンドベルを行い賑わっていた。また、参加者よりゆんたく会に参加することで元気をもらっているという声があったと報告があった。

那覇市立病院では、11月は外部講師を招きハーブクラフトを実施した。ハーブの香りが会場に広がり、リラックスしながら会話を楽しんでいた。12月の食事と運動のテーマには興味関心が強く、積極的に質問しメモされていた。体操のレクチャーや体力測定を行い、車いすの方も楽しみながら実践されていたと報告があった。

琉大病院では、今回初めて精神科医を招き、「気持ちのつらさ」について講演を行い、普段聞けない精神科薬のことや告知されてからの心理状態などについて、参加者から積極的に質問もあり、とても好評だった。運営上の課題として、SNSへの発信について約束事の確認が必要であること、話題がサプリメントなど民間療法に偏っていく場合は注意が必要であると報告があった。

パンキャンジャパン沖縄では、赤十字病院にて開催し 10 月は 22 名、12 月は 16 名の参加があり、フリートークやキャンサーフィットネスの講師を招き心と身体のケアを行った。様々な視点からの意見を聞けるように医師と栄養士にはぜひ毎回参加して欲しいとの声があったと報告があった。

北部地区医師会病院では、患者会を立ち上げたいというサバイバーがおり、今後県立北部病院も巻き込み開催できるよう少しずつ進めていきたいと報告があった。

SNS への発信について、那覇市立病院では基本的に院内での写真・録音は禁止となっているが、講師の判断でスライド撮影は可能となっている。パンキャンジャパン沖縄では、参加者の許可を得て写真を Facebook へ掲載しており、録音は自身で使う範囲で許可している。

また、ピアサポーターの活用について、参加者はピアサポーターとの交流が励みになっていることもあり、是非定期的に各サロンへ参加して頂きたいとのことだった。地域統括支援センターより、平日開催の院内サロンへの参加できるピアサポーターが限られていることや体調の変化があること、同じ病院に同じピアサポーターを派遣しないようにと苦慮している部分もあると報告があった。

3. がん相談件数（10 月～12 月）

資料 3-1～3-7 に基づき、令和元年 10 月～12 月の各拠点病院のがん相談件数について報告があった。

北部地区医師会病院では、ADL は自立しているが高齢のため精査しない等、がん疑いのままの相談がとて増えているが件数にはカウントしていないと報告があった。各委員より、がん疑いであっても非がん等もその他で集計できるため、カウントしているという意見があった。

県立中部病院では、ゲノム医療について患者からの相談だけでなく、医師からの問合せも増えてきていると報告があった。増田委員より、6 月に拠点病院、7 月に診療病院、8 月に専門病院、9 月に全ての病院、順次病院ごとの受入体制を整えていると報告があった。

那覇市立病院では、9 月よりがん専門看護師の派遣があり相談件数も増加している。60 分を超える相談が増えてきており、電話相談で長くなる方は直接来所を薦めるがなかなか切れない現状もあり、相談のあり方を検討している。また、インテーク時の判断で看護師へ繋いだり、告知同席している看護師から MSW の介入依頼など、上手く連携が取れて、患者を待たさず案内することができていると報告があった。

県立八重山病院でも、ゲノム医療の問合せもあり、傷病手当や障害年金について社労士（両立支援促進員）との面談を実施することができたと報告があった。また、次年度の相談センターの社会福祉士や看護師の増員について検討中であるとのことだった。

琉大病院では、部位に関して頭頸部や口腔外科、婦人科がんなど他病院では診ていな

い診療科が集約されており、内容としては外来での在宅調整や医療費に関する相談が多く、また、外来化療室で初期段階から介入し、仕事と治療の両立の相談が多い傾向にあると報告があった。

地域統括支援センターでは、火～金曜日の半日（4時間）対応しており、認定看護師からの声掛けがあって病棟での相談が8割、相談室来所の相談が2割となっていると報告があった。

4. がん相談件数集計（10月～12月）

資料4に基づき、山田委員より令和元年10月～12月の沖縄県がん相談件数集計について報告があった。各月450～500件前後の相談件数になっており、30代未満のAYA世代の相談が増加傾向にあると報告があった。年度途中より項目の変更があり、各病院の報告にバラつきがあるため、揃えるよう協力依頼があった。

5. がん相談支援センターの広報

資料5に基づき、山田委員よりがん相談支援センターの広報について報告があった。8件投函中4件の掲載があり、前回指摘のあった電話番号記載について、各病院で区切って掲載されるようになったと報告があった。

6. 第2回がん相談員実務者研修会

資料6に基づき、大久保委員より第2回がん相談員実務者研修会について報告があった。「がんと就労」をテーマに就労関係機関の講演を行い、15名の参加があった。実際にがん相談を受ける方々の参加が多く、今後取り上げてほしいテーマに相談対応の評価・モニタリング、高齢者・独居の対応、AYA世代の対応について挙げられていたと報告があった。

7. 中皮腫キャラバン隊とのセミナー実施について

資料7に基づき、大久保委員より中皮腫キャラバン隊とのセミナー実施について報告があった。3月7日（土）13時～15時開催、国立がん研究センターより講師を招くこととなった。医師以外に経験者の講話、アスベスト患者が利用できる制度についての講演、気持ちのつらさについて心理士の講話をプログラムとしている。また、講演後によろず相談会を企画しており、部会委員への協力依頼があった。2月下旬に出席確認を行うとのことだった。

8. がんピアサポートに関する意見交換会

資料8に基づき、伊波委員よりがんピアサポートに関する意見交換会について報告があった。ピアサポート体制の強化を図るため、日本サイコオンコロジーの小川先生、

グループ・ネクサス・ジャパンの天野会長を招き、がん患者サロンの世話人と意見交換会が行われた。運営上の課題等について、小川先生、天野会長より他県の状況を交えながら助言を頂いたと報告があった。

9. 2020年度版がんサポートハンドブックについて

山田委員より 2020年度がんサポートハンドブックの新着状況について報告があった。現在、編集作業が終了し、2月末より印刷入り、3月中旬に納品され各医療機関へ発送予定である。配布され次第、院内での配布・活用の協力依頼があった。

10. その他

1) 就労支援について

増田委員より、就労支援について3団体にて講演を行ったが、港などで働いている肉体労働者の責任者より、がん相談支援センターの広報について意見があったと報告があった。企業や各団体への周知アプローチも必要であるとのことだった。

2) がん教育について

増田委員より、沖縄県のほぼ全ての中学校・高等学校でがん教育が行われると報告があった。各学校でクラスごとに保健体育教諭が行い、医療者及びがん患者関係者など外部講師の活用と学校教諭の両輪と言われている。次年度上半期に外部講師のカリキュラム作成、下半期に外部講師カリキュラムの実施、再来年度には医療者向けのカリキュラム作成を予定しているとのことだった。

【協議事項】

1. 第3回がん相談員実務者研修会

仲宗根恵美委員より、3月14日（土）に南部医療センター認定チャイルドライフスペシャリストを講師に招き、「がんになった親をもつ子どもへの支援」のテーマで、第3回がん相談員実務者研修会を開催すると報告があった。取り入れて欲しい研修内容について、「子供へどう伝えたらいいのか」、「初期の段階や終末期などそれぞれの時期での対応方法」、「思春期の子への伝え方」や「冊子等のツールを用いて情報提供する際の心得」等、各委員より意見があった。ファシリテーターの招集について協力依頼があった。

2. がん相談員マニュアルの作成

資料10に基づき、大久保委員よりがん相談員マニュアル作成について、前回協議した内容の最終確認があり、承認された。各施設での実情に合わせて修正し、活用するよう周知された。

3. がんサロンネットワーク会の開催について

山田委員より、今年度のがんサロンネットワーク会開催の報告があり、次年度の開催について協議が行われた。次年度は、世話人の連絡会を1回、講演会を交えた意見交換会を1回開催することとなった。

4. PDCA チェックリストの実施について

資料 11 に基づき大久保委員より、国部会で決定された PDCA チェックリストについて報告があり、まずは全項目チェックしてみて、沖縄県に合わない項目については検討することとなった。年度末に各病院でチェックし、取りまとめは琉大病院で行うこととなった。

5. 令和 2 年度部会計画について

資料 12 に基づき大久保委員より、令和元年度の部会計画実施の確認および次年度の計画案について提案があり承認された。また、拠点病院以外への周知・広報活動について沖縄県への協力依頼があった。

6. 地域相談支援フォーラム in 佐賀

資料 13 に基づき大久保委員より、地域相談支援フォーラム in 佐賀が 2020 年 2 月 29 日の開催となっており、傳道委員と山田委員が実行委員として参加すると報告があった。各県の取り組み発表のテーマが「8 年間の歩み」となっており、各病院の活動トピックをメールにて連絡することとなっている。また、部会委員の参加についても声掛けがあった。

7. その他

(1) 次回、令和 2 年度第 1 回情報提供・相談支援部会開催日委について

第一候補の令和 2 年 5 月 14 日（木）に開催することとなった。

(2) 部会委員の編成について

現在の委員は拠点病院と患者連合会で編成されているが、地域統括支援センターからの委員はおらず、部会での議論などの情報共有ができない状況がある。次年度、地域統括支援センターへ招聘依頼することについて再検討することとなった。また、部会委員の変更があれば事務局へ連絡するよう声掛けがあった。